

保木協国有林における有利採材について

古川営林署 真田 公一

1. はじめに

古川製品事業所は貯木場も兼ねた総合事業所であり、現在清見村、上小鳥国有林に7セット、国府町、保木協国有林に2セット合せて9セットで冬山生産事業を実行している。

冬山生産事業は人工林が主体であり、ヒノキ・スギなどの有用樹種については、柱取りを基本とする有利採材を以前から現場のセットへ指導しているところである。

この発表は保木協国有林229林班に当署管内唯一の人工林があり、この貴重な資材の有効活用と、現場職員の有利採材技術の定着を狙ったものである。(図-1参照)

2. 目的

(1) 貴重な資材の有利採材、有利販売！

木材業界はどのような材を求めているのか、どのような材が高く売られているか。

(2) 現場職員へ商品としての造材作業の重要性を認識させる！

固定玉切装置の画一的造材の排除。

2点の目的を達成するために、生産、製品、処分、収穫、収入販売、事業所職員がそれぞれの立場で資料、情報を収集し、有利採材検討会を開いた。

3. 有利採材検討会内容（採材方針の設定）

(1) 集成材用材（58年度から生産開始）

ヒノキ末口径22cm上、隣接2材面無節、材長3m、元玉のみ。

(2) 通し柱用材

ヒノキ、スギ、ヒメコマツ、末口径14～20cm、曲り30%以内、材長6m。

(3) 梁用材

アカマツ末口径22cm上、重曲材を除く。材長5m、6m。

この外の樹種、材種については、当署の造材寸法書によるものとする。

そこでこの採材方針を、いかにして作業の流れの中で、的確に造材させていくか、特に固定玉切装置のオペレーターは、材の一方向しか判断できず、造材作業が難しく、勢い画一的操作に走りやすい。これをどれだけでも慎重な判断をさせ、功程を上げるには、採材方針の材種が採れると思われる立木に標示をすれば、造材作業がやりやすく、能率的になる。

早速、検討会のメンバーで冬山開始前の11月下旬現地へ入り、3人1組でポール、測桿、輪尺使、曲り節など調べながら立木を標示した。(図-2参照)

12月から冬山生産事業を開始し、2セット18名が入山し、集材線固定玉切装置等の施設が完了した。集造材が軌道に乗った頃から、署内職員が現場へ出かけて直接採材の指導にあたった。

第1表は、ヒノキに標示した数量と、実際貯木場へ出てきた集成材、通し柱の数量を比較したものである。(第1表参照)

この採材結果の本数の中には、標示木でも固定玉切装置に乗った時、曲り、節などで採材できない木もあれば、標示木以外で採材可能な材も含まれている。通し柱が標示木より2本増えたことは、現場職員が造材作業に積極的になったといえる。

第2表は樹種材種別の生産量と販売単価である。やはり集成材、通し柱は高い単価で売れ、有利販売につながった。(表-2参照)

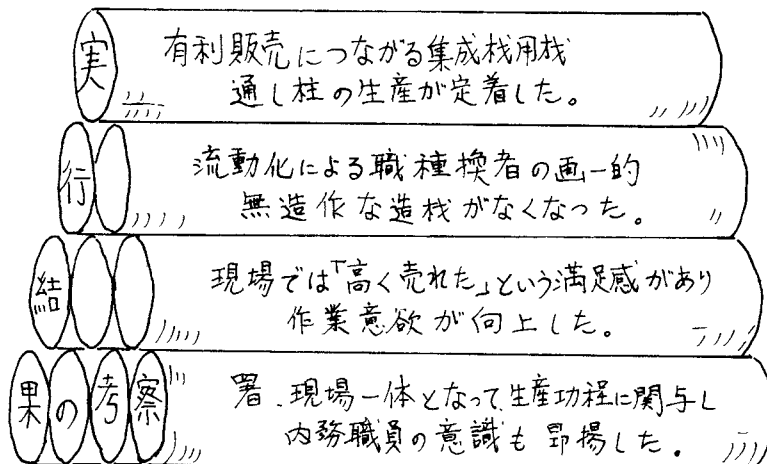
第3表は従来通り実行した52年度と、立木標示した53年度で、ヒノキ3m6m柱の生産実績の表である。(表-3参照)

この表から言えることは、立木標示した53年は、3m柱材が減少し、通し柱が4倍余り大きく伸びたこと、3m、6m両方合せてみても柱取り比率が高くなった。これはかなりの成果であり、有利販売、収入確保につながった。

以上実行結果からまとめてみると、

図-3

まとめ



一旦造材され、貯木場まできた素材は、短かく切ることはできても、長くすることは不可能であり、有利な積積をするにも限られるが、私の事業所は貯木場も兼ねているので、検知職員が絶えず材の状態を把握して、適切な採材、積積をして有利販売と山の有効活用に努力している。

図-1 管内位置図と事業地の概要

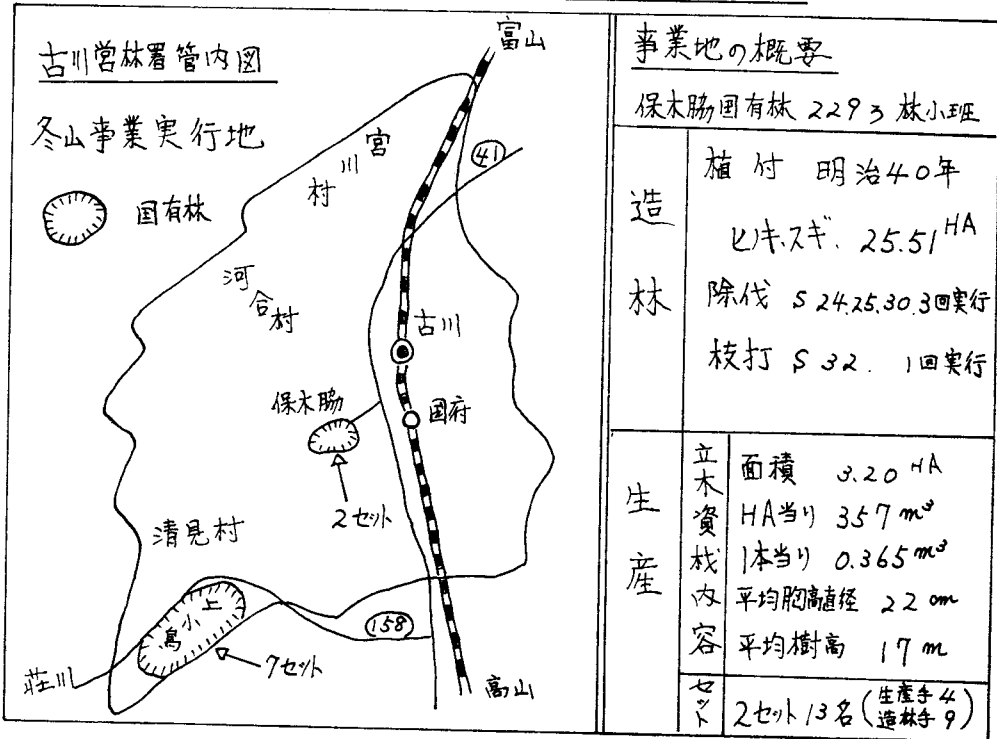


図-2 現地で実施した立木標示図

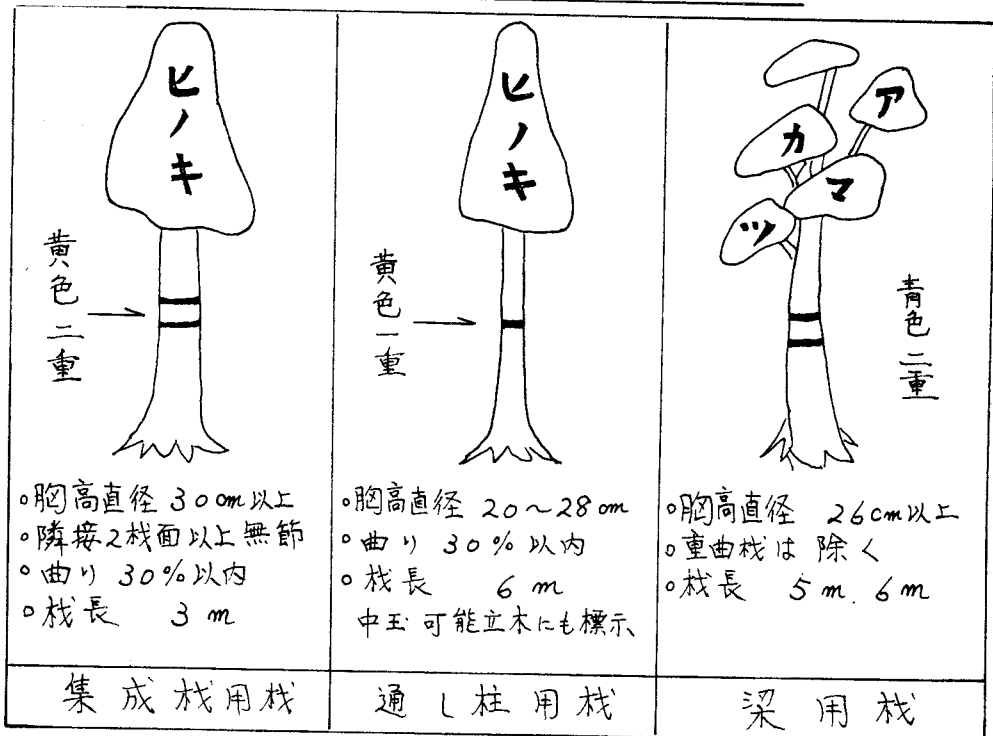


表-1 匕)キ標示立木と採伐結果 (53年度)

	標示立木		採伐結果		本数歩止まり
	本数	材積	本数	材積	
集成材(3m)	120 ^本	105 ^{m³}	78 ^本	17 ^{m³}	65%
通し柱(6m)	314	147	316	59	101

表-2 樹種別生産量と販売単価 (53年度)

樹種	材種	本数	材積	材積比	販売単価	備考
匕)キ	3m柱	2,287 ^本	163.5 ^{m³}	26%	67,829 ^{円/本}	
	6m柱	316	59.1	9	90,102	
	集成材	78	16.8	3	150,000	
	一般材	4,580	390.6	62	64,982	
	計	7,261	630.0	100	70,344	
スギ	3m柱	419	31.8	12	27,579	大径材が多いため 一般材の単価 が高くなった。
	6m柱	21	3.8	1	38,421	
	一般材	1,471	238.0	87	33,202	
	計	1,911	273.6	100	32,621	
アカマツ	梁材	168	51.4	33	24,027	
	一般材	1,091	104.0	67	16,125	
	計	1,259	155.4	100	18,739	
ヒメコマツ	3m柱	76	5.5	8	15,173	注文材 9.2m 4本
	6m柱	16	3.7	5	29,951	
	一般材	882	62.6	87	15,420	
	計	974	71.8	100	16,152	

表-3 ㄟ) ㄱ柱棧生産実績 (52.53年度)

年度	柱通棧径級立木 16 ~ 28cm 正常木		採 棧 結 果								
			3 m 柱			6 m 柱			計		
	本数	棧積	本数	棧積	比率	本数	棧積	比率	本数	棧積	棧積 歩止割
	本	m ³	本	m ³	%	本	m ³	%	本	m ³	%
52	1,522	460	3,506	255	95	77	14	5	3,583	269	58
53	897	332	2,287	163	74	316	59	26	2,603	223	67
增 (減)	(625)	(128)	(1,219)	(92)	(21)	239	45	21	(980)	(46)	9